

塩治コミュニティセンター報

ENYA COMMUNITY CENTER NEWS

電話/0853-21-0248 Fax/0853-21-3837
メールアドレス/enya-cc@local.city.izumo.shimane.jp

No.203 [2021年12月22日発行]

塩治地区の世帯数と人口

令和3年11月末現在

世帯数	7,266世帯
人口	15,792人
(男)	7,707人
(女)	8,085人

原石鼎顕彰句碑除幕式

～「原石鼎顕彰句碑建立の会」～

11月21日(日)

出雲市内には原石鼎の句碑がいくつかありますが、生まれ故郷の塩治地区には一基もありませんでした。そこで昨年8月に、塩治にも顕彰碑と句碑を建立しようという声があがり、集まった有志で「原石鼎顕彰句碑建立の会」を立ち上げられ、塩治揚公園に顕彰句碑を建立されることとなりました。たくさんの皆様からご寄付があり、11月21日に顕彰句碑が完成しました。

塩治揚公園で行われた顕彰句碑除幕式では、「原石鼎顕彰句碑建立の会」須山泰則会長の挨拶、飯塚俊之市長の挨拶、^{かひや}鹿火屋主宰で原石鼎の孫にあたる原朝子代表の挨拶、来賓紹介の後、須山会長、飯塚市長、原朝子さん、宮本市議会議員、板倉市議会議員など関係各位の代表によって顕彰碑・句碑が除幕されました。

閉式の後、塩治小学校吹奏楽部による「塩治讃歌」「ディズニー・マジカル・マーチ」の2曲の記念演奏がありました。



「故郷の すすしの陰や 春の雪」

句碑に刻んだ句は、昭和10年に石鼎の母が危篤で出雲に帰省した時に作られた一句です。心から慕っていた母への想いがこめられています。



原石鼎(本名:原^{かなえ}鼎)は明治19(1886)年、塩治村下塩治に医師 原元利の三男として生まれました。家業である医業を継ごうと京都医療専門学校で学びましたが、父の医業を次ぐ事を拒み、俳人としての道へ進みました。高浜虚子に認められ、ホトトギス社に入社。「鹿火屋」を主宰し創刊しました。

昭和26(1951)年12月20日、66歳で永眠。神門寺に原石鼎のお墓があり、観音堂には石鼎の門弟たちの句が掲げられています。

(原弘記氏 記事抜粋)



こんな事業をしました!

9月～11月は下記の事業を行いました。新型コロナウイルス感染症予防対策に注意しながら実施することができました。多くの皆様にご理解のうえご参加いただき、ありがとうございました。

こんにゃく作り講習会 シルバー部

11月24日(水)



栽培に3年かけて収穫した地元産のこんにゃく芋を使い、こんにゃく作りをしました。講師から手順を聞きながら、4グループに分かれて作業を始めました。生芋は灰汁が強く、ゴム手袋をはめての作業でした。こんにゃくが固まるまでの間にこんにゃく芋の栽培方法などの話もあり、「こんにゃく芋を育ててみたい」との声もあがりました。試食を中止したので出来立てほやほやの味はわかりませんが、手作りしたこんにゃくは一段と美味しいことでしょう。



花を植えて街をきれいに シルバー部

10月13日(水)・14日(木)

地区の花が大好きな皆さんと、「どんな色合いがいいかな～?」「こっちがいいよ～」など和やかな話し声の雰囲気の中、コミュニティセンター花壇プランターに冬を超え春先まで楽しめる花々と球根を植えました。「楽しみにしとったよ!」と心待ちにして参加してくださる方もあり、コミュニティセンター玄関周辺が一段と華やかになりました。



EMぼかし作り まちづくり部

9月28日(火)

8名が参加し、2グループに分かれてEMぼかしと発酵液を交互に作りました。

EM(有用微生物群)のはたらきで作られるEMぼかしは、土壌改良肥料として活用することができる肥料です。また、生ごみを減らすなどの環境づくりに貢献するだけでなく、地域の交流にもつながり、活用法など会話を交えながら楽しく作業しました。次回開催は来年3月の予定です。興味のある方はお気軽にご参加ください。



区民ハイキング ~日御碕周遊ウォーク~ まちづくり部

10月19日(火)

「日御碕周遊ウォーク」と題し、25名の参加で秋のハイキングに出かけました。神宮寺をスタートして、宇龍漁港・おわし浜を巡り、日御碕灯台周辺まで続く松並木の遊歩道を抜け、日御碕神社まで散策しました。ジオパークに認定されている、美しい出雲松島の景観を見晴らす展望台から、隠岐の島を見ることができた参加者の方もおられ、晴れた日にしか見られない景色に感動もひとしおでした。



ふるさと探訪 まちづくり部

11月17日(水)

27名が参加し、大楯七兵衛の足跡を辿る「ふるさと探訪」に出かけました。秋晴れの好天に恵まれ、自然と会話も弾み中、バスで馬木岩樋から十間川に沿って差海川河口まで行き、「出雲国風土記」にも記されている那賀佐神社と岩坪を訪ねました。

十間川を辿りながら、出雲の農業の発展に繋がった江戸時代の大事業について学び、ふるさとの魅力を改めて再発見する機会となりました。来年度も楽しい企画を予定しています。ぜひご参加ください。



草木染め体験&出雲 弥生の森博物館見学

女性部

9月8日(水)

昨年は女性部の事業として草木染め体験を計画していましたが、コロナで計画通り行えず、部員だけの専門研修として行いましたが、今年は事業として行うことができました。

当日は雨天のため、博物館職員が事前に藍の葉を用意してくださり、博物館学芸係の三原一将係長より染め物のお話を聞き、シルクのハンカチに輪ゴム等で模様をつけ、藍の葉で作った染色液で染めました。



その後、三原係長に日本最大級の弥生王墓や弥生時代の出雲の歴史について説明してもらいながら館内を見学しました。



廃食油石けん作り

女性部

10月24日(日)

今まで平日に開催していた廃食油石けん作りを、今回初めて週末に開催したところ、10名の方にご参加いただきました。何回か参加されている方もおられ、手際よく牛乳パック24個分の石けんを作りました。

参加者は、互いに意見交換をしておられ、石けんのきれいな切り方や独自の使い方を聞き、利用の幅が広がりました。



暮らしに花を ～寄せ植え教室～

女性部

11月30日(火)

女性部の活動では初めての寄せ植え教室をしまね花の郷にて開催しました。12名が参加し、しまね花の郷の職員から花の性質や寄せ植えをするポイントを分かりやすく教えてもらいながら、ガーデンシクラメン、ビオラ、バコパ、リシマキア、ハボタンの5種類を植えました。水やりの仕方や適した置き場所、花がらつみの大切さなど管理するポイントも説明してもらいました。



受賞おめでとうございます!

【令和3年度自治会役員感謝表彰】

下沢地区理事連続10年勤務表彰 **和田武之志様**

【島根県知事感謝表彰】

一般相談員功労表彰 **周藤祥三様**

【島根県社会福祉協議会会長表彰・感謝】

民生委員・児童委員功労者表彰 **佐藤一郎様**

【令和3年度交通安全功労者表彰】

坂本均様 池田則雄様

展示しています!

「塩冶地区健康作り推進員の活動紹介」

「健康に関する身近な話」 ～3月31日(木)



塩冶地区の健康づくり推進員と、地区担当保健師の船越千明さんが皆さんの健康づくりに活かせるポスターを作成されました。

出雲市立第二中学校美術部作品 ～1月31日(月)



二中の美術部の皆さんが流木を使ったオブジェを制作されました。

青パト隊 防犯教室参加 11月4日(木)

塩冶青色防犯パトロール隊は、塩冶小学校1・2年生の防犯教室に参加しました。青パト車両を展示するなどして児童たちとふれあいました。今後も地域の子どもの安心・安全をサポートする見守り活動を続けていきます。



館内清掃を実施

11月下旬、12月中旬にかけて館内清掃を行いました。

今年もコロナ禍のため職員のみでの清掃活動になりましたが、順番に各部屋を清掃し無事に終わることができました。

来年は、利用者の皆様といっしょに清掃できることを願っています。



今号の『えんや物語』

冬の代表花でもある椿。出雲が生んだ俳人、原石鼎の生家には今でも石鼎が見慣れていた白い椿が咲いています。今号では、原石鼎にまつわる「二つの石鼎椿」について掲載します。代表的な彼の椿の一句とともにお楽しみください。

えんや物語

第20号
平成16年3月発行
塩冶コミュニティセンター文化部
題字 万代順子氏

二つの石鼎椿

一枝の椿を見むと故郷に 原 石鼎

出雲の生んだ俳人 石鼎の代表作といわれる一句です。

石鼎は開業医であった父の意志に叛き、俳人としての道を選んだため、上京後はほとんど生家に帰ることはなかったようです。

昭和十年頃母堂危篤の報に接し塩冶に帰って来ましたが、勘当の身で生家に入れてもらえず、近所の魚屋さん（現「金盛」）のおばあさんの取り成しでようやくお母さんに逢うことができました。この句はその時にできたといわれています。白い清楚な椿には、石鼎の母への思いがこめられています。小さい頃の石鼎が見慣れていたのは、白の八重咲き、中輪の椿です。今では木の直径は二十厘位、高さ四米の太木となり、たくさんのお花を咲かせています。塩冶町湯新道の生家に行くと、前の道路からもこの花を見ることが出来ます。

日本画家 小豆沢禮氏の描く「原石鼎句抄絵」にもこの白い八重椿が描かれています。

最近、生家の椿を見に訪れる人が多くなりました。この椿は山茶花のように花びらがぱらぱら散り、放っておくと茶色に変色するので掃除が大変だそうです。原春枝さんがお一人でこの生家を守っておられます。白い椿の木は二本ありますが、いずれも老木です。

ビッグハートで開かれた「石鼎俳画展」の会場にピンクの美しい椿の盆栽が置かれ人々の目を引いていました。最近注目されて来たもう一つの「石鼎椿」です。

ピンクの「石鼎椿」発見のいきさつ

○「直さん椿」

上塩冶の岸直さんは大変花好きで、筒状でピンクの椿を大事に育てておられた。戦前この苗を直さんから分けてもらい育てた所、毎年見事な花が咲くようになり、職場に持って行ったたり、椿の同好会に出品したりして、たいへん好評を受けていた。名前がないのでとりあえず「直さん椿」と呼んでいた。昭和四十年代だったと思う、塩冶の地の椿ということで松江の椿の会で「椿」「石鼎」と正式に命名された。（今岡清氏談）

○「カメさん椿」

昭和四十九年の春先。工業高校の化学準備室に一輪の美しい椿が挿してあった。担当の方に尋ねたら「実家にある椿です。私は小さい時からこの花が好きで、今でも実家に帰ると真っ先にこの椿を見ます。」とのこと。その家は塩冶神社の参道の北側にあり、樹齢百年以上もある木であった。御母堂の話では、近所の旧家にこの木の原木があり、ご主人の名を取って「カメさん椿」と呼んでいたとのこと。

同じ塩冶町に石鼎の生家があるところから昭和四十九年山陰カメラアン・クラブにより「石鼎」と命名された。（椿同好会会報より）

花には、人それぞれの思いがあります。

石鼎の句に出て来る椿は、世界でたった一つ、生家の庭にだけ咲く白い椿です。同じような椿があっても石鼎椿ではないと思います。石鼎が自分の目で見、心で感じた「石鼎個人の心の椿」です。

ピンクの椿は、美しい色と姿で以前からたくさんの人に愛されて来ました。

郷土で生まれた対称的な二つの石鼎椿。地区の皆さんにもっと知ってほしいと思います。泉下の石鼎はこの二つの椿を見てどう思っているのでしょうか。（文化部 板倉 弥生）

ご寄贈御礼

小豆澤齊さんより、小豆澤禮さんの本「原石鼎句抄絵」をいただきました。ご寄贈ありがとうございました。



ご寄付御礼

（塩冶地区・島根大学医学部連絡協議会、塩冶自治協会）

コロナ禍の中、昨年より呼びかけ期間を長くし、経済的に困難な島根大学医学部の学生への食糧支援を実施しました。集まった米384kg、他食料品ダンボール約20箱分を11月17日に医学部へ贈呈いたしました。ご寄付ありがとうございました。



ボランティア活動お礼 ありがとうございます!!



11月7日(日)
弓原桜樹会の皆さんに、庭木の剪定をしていただきました。



11月13日(土)
出雲市立第二中学校の生徒の皆さんに、二中周辺とコミュニティセンター周辺の清掃活動をしていただきました。

今後の予定

- 1月 8日(土) 塩冶地区新年賀会
- 1月 みそ作り
- 2月 布草履作り
- 3月 E Mほかし作り

※新型コロナウイルスの感染状況によっては急遽、中止する場合があります。



年末年始の業務について

12月29日(水)～1月3日(月)、コミュニティセンターは休館します。この期間は部屋の利用もできません。開館は1月4日(火)です。

